

附属の学校

中央大学高等学校

■ 加藤諦三先生講演会

中央大学125周年記念の一環として加藤諦三先生をお迎えし「非社会性の心理学」と題した講演会を行いました。広く一般の方にもご来場いただけるよう文京シビック大ホールで開催しましたが、熱心な方は整理券配布時間の正午から並ばれていました。本校生徒、教職員、一般の方を含め800人が聴講し、生徒たちも加藤先生のお話にじっと聞き入っていました。文京区下の全中学校にチラシを配布し、本校在校生の出身中学校にはポスターを掲示していただくなど、中央大学の記念行事として広くアピールできたのではないかと考えています。

■ 後楽際(文化祭)と体育祭を開催

9月は行事の月でもあり、後楽際(文化祭)と体育祭を開催しました。後楽際は猛暑の中、2,000人を超える来場者がありました。体育祭は例年通り六義公園運動場で実施しました。2日目は雨のため途中で中止になりましたが、初日に応援合戦や団体競技を行い、夏休みからの練習の成果を披露することができました。本校には運動場がないため、同じ場所でのリハーサルは当日の朝しかできないなか、見事な演技を披露してくれた生徒の頑張りに保護者からも大きな拍手が送られていました。



中央大学杉並高等学校

■ ボート部、4年連続インターハイ出場

8月に行なわれた沖縄インターハイのボート競技に、本校から女子ダブルスカルが出場しました。準々決勝進出はなりませんでしたが、全国の強豪クルーとレースをする貴重な経験となりました。

■ ソフトテニス部、40年ぶりインターハイ出場

7月に有明テニスの森で行なわれた全日本高校選手権東京都予選で、関口慎二さん、江口佳吾さんのペアが見事ベスト8に残り、ソフトテニス部として40年ぶりにインターハイに出場しました。初戦でファイナルゲームまで競ったものの、惜しくも敗退しましたが、来年もインター

ハイめざし、部員一同がんばります！

■ 演劇部、「韓国全国青少年演劇祭」に出場

8月に韓国・ソウルにある「芸術の殿堂自由小劇場」で開催された「韓国全国青少年演劇祭」にて、東京都代表として特別招聘公演を行ないました。当日は超満員の客席を前に熱演。日本語での上演でしたが、言葉の壁を越えて大好評を博しました。

■ 国体なぎなた少年女子の部で入賞

9月に行なわれた第65回国民体育大会で、3年の西澤以久美さんが、なぎなた少年女子の部、演技競技で5位、試合競技で4位と、素晴らしい成績を収めました。



中央大学附属・系属校[※] 合同説明会を実施



8月の大学オープンキャンパスと同時開催で、「附属・系属校[※]合同説明会」を実施。各附属校の先生方が、参加した674名の保護者と小中学生に中高大一貫教育の魅力などを伝えました。アンケートでは、「気になる複数の学校の説明を1

日で聞け、各校の特色や雰囲気がわかって良かった」「高校の説明だけでなく、大学についても知ることができ良かった」「誘導の学生はしっかりしていて、我が子にも行かせたいと思った」など、満足度の高い回答が多く寄せられました。

※ 2010年10月に横浜山手中学校・高等学校は中央大学の附属校となりました。

中央大学附属中学校・高等学校



■白門祭

中学校と高等学校合同の文化祭が、9月に開催されました。中学校の文化祭では、各教科の学習成果の発表や作品の展示、演劇、理科実験、ハンドベル演奏、ゲーム等が披露され、充実した質の高い文化祭でした。「最初の文化祭だから、後の模範となるものをめざそう」という生徒たちの心意気を感じられました。

高校は、クラス・クラブ・有志の64団体が参加した盛大な文化祭でした。文化部や有志団体の展示・発表・公演、運動部の親善試合、各クラス単位のミュージカル・遊戯・模擬店等の様々な出し物があり、まさに青春を謳歌した思い出に残る祭典でした。

■中学校体育祭

中学校の初めての体育祭を10月に開催。2人3脚、綱引き、大縄跳び、障害

物競走、騎馬戦、全員リレーなど一人ひとりの力を出し切り、チームワークを競いました。1学年168人だけの体育祭でしたが、生徒、保護者、教職員の3者の熱い心が一つになった体育祭でした。

■行事及び部活動の報告

中学校 林間学校(7/11～12)、イギリス語学研修(7/25～8/17)、石垣島研究旅行(8/19～23)、小笠原研究旅行(8/19～24)、ステップ講座(9/29・10/6・13・20)、ライフル射撃部国体出場3位、陸上部関東新人大会出場、水球部都新人競技大会女子2位、ソングリーディング部 USA Novice Championship 2部門第1位、マンドリン部全国高校ギター・マンドリンフェスティバル優秀賞、演劇部全国高等学校総合文化祭出場、吹奏楽部定期演奏会(9/5)、マンドリン部定期演奏会(9/25)。

中央大学横浜山手中学校・高等学校



■教育の場としての質的向上・充実をめざす

2010年度より、6日制・38時間授業による新カリキュラムをスタート、学校全体の方向性を「学びと生活の充実」へと決めました。習熟度別授業や進路別クラスを取り入れながら基礎学力の向上をはかり、クラブ・委員会活動、学校行事等への積極的かつ主体的参加を促すことで、生徒が学校生活への充実感や信頼感を持てるように取り組んでいます。

学校が大きく変わりつつある中で、中学生と高校生の違いなどを乗り越えて学校全体に一体感や愛校心を醸成する取り組みとして、全校に挨拶の音が響きわたる環境づくりをめざした「あいさつ運動」を展開しています。

■学力向上のための行動

授業の理解度・定着度向上や実力養

成を客観的に把握するため、全国規模の実力テストを年間3～5回導入しています。生徒自身が自分の現在の状況・学力を知るとともに、教員側も結果に基づく授業分析と目標設定に利用しています。

また、補習や大学進学者への講習も行っており、今後さらに組織的な取り組みを進めていきます。

■積極的に募集活動を推進

中央大学の附属校化によって、受験生・保護者、受験界からの期待が高まっていますが、さらに学校の教育内容を知ってもらうために、年間4回のオープナーを設け全ての授業を公開しています。また、広報部を中心に各種の説明会に積極的に参加するとともに、中学校訪問(全教員が担当)、塾訪問を行い、理解と周知に努めています。